

今年も『秋の味覚』庄内柿を

よろしくお願い致します！



今年の庄内地方は春からの天気が比較的良く、一面に広がる田んぼは例年より早く色付いて収穫の秋の到来を感じさせます。6月には新潟・山形地震が起こり沿岸部を中心に多くの被害がありました。当法人の柿生産者の圃場では幸い被害がなく済みました。

2019年は元号が平成から令和に変わる節目の年となりましたが、柿の生産者も志藤正一氏から私、對馬啓太へ引き継ぎを行った年になりました。非農家だった私が農業を志して就農し、志藤氏との出会いをきっかけに山形県鶴岡市に移住して、現在は庄内協同ファームの組合員として水稲と柿の生産を行っています。将来は志藤氏の農業経営を継承していく計画です。

私は現在31歳で、志藤氏が柿の減農薬栽培を始めてからも同じ31年が経っています。減農薬で病気を出さないための試行錯誤や、落葉病という病気が出たときの近隣農家との付き合い等、これまでに非常に多くの努力を積み重ねて来たと同いました。その結果、現在は慣行栽培に比べ5割以上も化学合成農薬を削減し、肥料は化学肥料を使用せずに全て有機質肥料を施用しています。今年から私が新たな柿生産者になりましたが、栽培方法はこれまでと同様の栽培基準で管理しています。まだ雪深い1月の剪定から始まり、適期の病害虫防除、年4回の下草刈り、6月の摘蕾作業、夏の間は摘果・剪定、どの作業も減農薬でも品質が良く食べて美味しい柿を作ることに繋がっていると感じられた時間でした。現在のところ病気や虫による大きな被害はなく、このまま順調に生育して収穫の秋を迎えられればと思っています。

今後も志藤氏が築いてきた減農薬栽培の良い点は積極的に引き継ぎながら、今後の柿に合わせて新しいことにも果敢に取り組んでいきます。

皆様のもとに甘くてジューシーな秋の味覚「庄内柿」を届けられるよう収穫作業も丁寧に行っていきたいと思っております。今年も庄内柿をどうぞ宜しくお願い致します。

栽培方法

化学肥料：不使用 化学合成農薬：5割以上削減

2019年9月6日

農事組合法人 庄内協同ファーム

柿生産者 對馬啓太



【柿生産者のみなさん】

